

三島で環境保全体験

ネパール大地震被災の少年4人

NPOの招きで来日

昨年のネパール大地震で自宅を失うなど被災した13、14歳の少年4人が20日、支援活動をしてきたNPO法人「グラウンドワーク(GW)三島」などの招きで三島市を訪れた。同市南本町の「三島梅花藻の里」でミシマバイカモの手入れをした

り、源兵衛川で茶わんのかげらを拾ったりして、環境保全の取り組みを体験した。教員、通訳を含む一行6人はネパールの首都・カトマンズから12日に来日。山梨県に滞在後、20日から23日まで三島市で過ごす。20日は富士山の湧水が流れる梅花藻の里を訪れ、サンダルに履き替

えズボンをまくり水中へ。GW三島の渡辺豊博専務理事から「密集したバイカモに空気を入れると花がきれいに咲く」と説明を受け、その通りにバイカモの手入れをした。ネパールでは15年4月25日、マグニチュード7・8の大地震が発生。約9000人が死

亡した。当時、ネパールにバイオトイレを贈る計画を進めていたGW三島は街頭募金などで約240万円を集め、復興を支援した。21日以降は富士山宝永火口周辺散策や三島市立沢地小学校の児童との交流、同市川原ヶ谷で農業体験もする。自宅が全壊し祖父母が負傷したというサウラプ・ニラウラさん(14)は「三島は非常にきれいな町。ネパールはごみがたくさんで川も汚れている。みんなで掃除したら、きれいになるとネパールに帰ってみんなに伝えたい」と話した。【垂水友里香】



ミシマバイカモの手入れをし、ごみを取り除くネパールの少年＝三島市南本町の三島梅花藻の里で